

尾山

船坂地域の これからを考える

山口町船坂 将来構想

2004年 1月

船坂の農業・農地を考える会

目 次

1 船坂地域の現状	
(1) 船坂地域の概要	1
(2) 船坂地域の農業	2
(3) 集落の現状	4
(4) 船坂地域の農業における問題点	6
2 これまでの地域の取り組み	7
3 船坂ビジョン	
(1) 集落ビジョン作成の考え方	10
(2) 集落意見交換の実施	10
(3) 船坂集落の方向性	17
(4) 船坂将来構想	18
(5) 将来構想の実現に向けて	19
○ 資料	
(1) 船坂の農業・農地を考える会規約	21
(2) 平成13年11月実施の意向調査結果	22
(3) ふなさか未来通信	27

1 船坂地域の現状

(1) 船坂地域の概要

■ 船坂地域は、西宮市北西部に広がる山口町の南部、六甲山系の北側の標高 330~460m に位置している。地区南部は、六甲山系と摂津山系の自然緑地ゾーンとなっている。

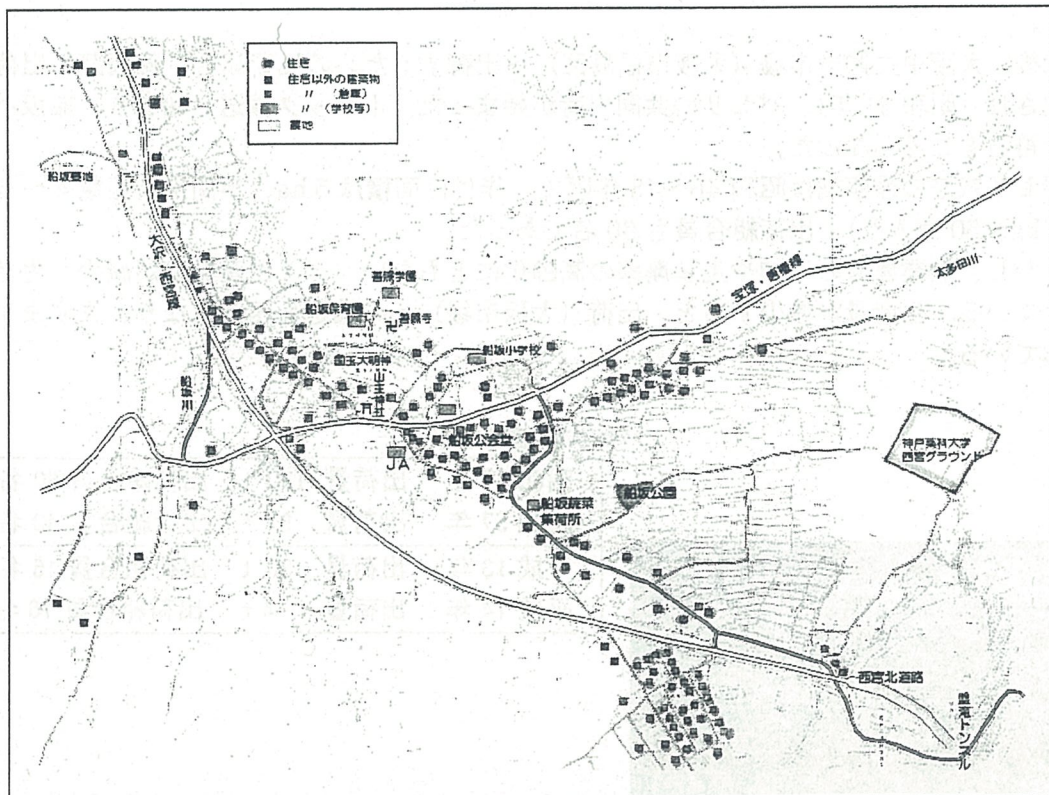
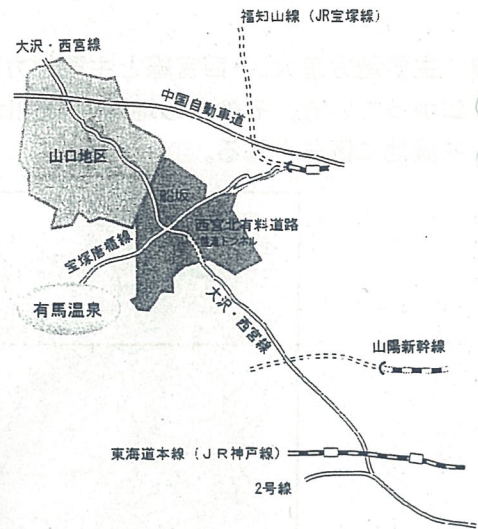
■ 武庫川の支流である大多田川が生瀬から地区を横断し、また、金仙寺湖へ流れる船坂川が縦断している。

■ 西宮北有料道路（盤滝トンネル）や主要地方道大沢・西宮線により、西宮市街へは車で 20 分ほどである。
大多田川に沿った主要地方道宝塚・唐櫃線により、宝塚市街へも約 15 分と、車による利便性は良い。

■ 宝塚・唐櫃線により西へ車でわずか 5 分で有馬温泉（神戸市北区）に通じる。
また、地域の北部にはゴルフ場（西宮高原ゴルフ倶楽部 1961 年開場）が開発されている。

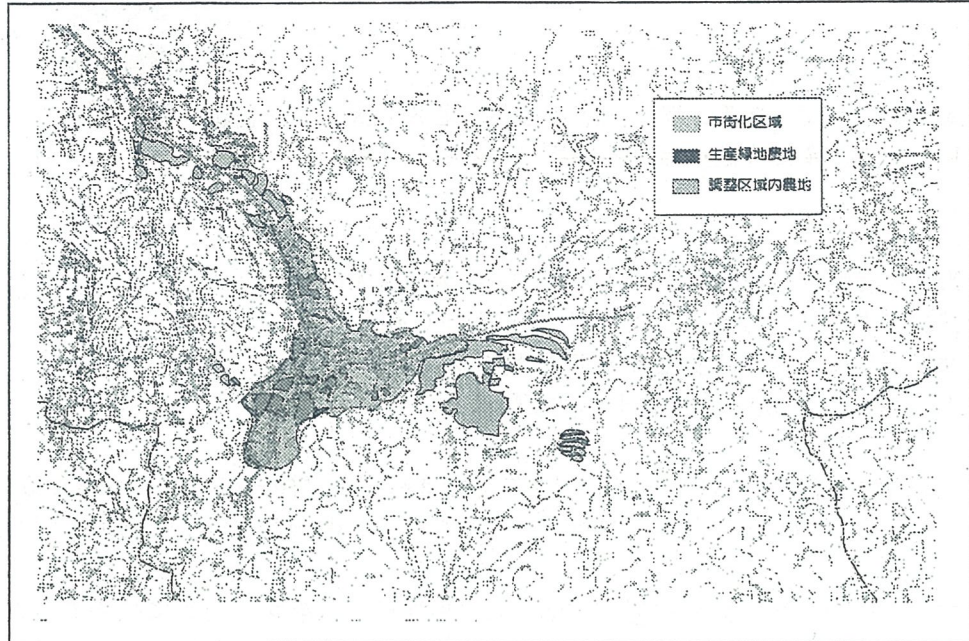
■ 古来、船坂地域は大和や難波方面から有馬温泉へ入湯するために往来する人たちの街道筋にあっていた。生瀬から太田多川に沿った、きびしい山中を往来したといわれている。この街道（有馬街道）は、有馬温泉への入湯路だけでなく、播磨、丹波地方へ通じる重要な道路の一つになっていた。

鎌倉時代の初期、有馬温泉を復興した仁西上人が、温泉の湯船の板をこの地に求めたことから、船坂という地名がついたとされている。



(2) 船坂地域の農業

- 主要地方道大沢・西宮線と主要地方道宝塚・唐櫃線が交差するところを中心に、市街化区域が広がっている。そのため地区の農地は、市街化区域内農地、生産緑地農地と、市街化調整区域内農地に区分される。



■パセリ

有馬郡山口村船坂（現在の西宮市山口町船坂）でのパセリの栽培は、大正5年、坂本真之定氏（明治34年生）が奉公先の大阪天満市場をやめて帰郷する時、種子を持ち帰ったのが始まりである。

戦後、大阪中央卸売市場（大阪市福島区）へ出荷するための出荷組合「船坂蔬菜出荷組合」が結成され（昭和31年）、パセリの共同出荷が始まった。トラック輸送も始まり、船坂パセリの名声を得るところとなった。

パセリ栽培の最盛期は昭和46～48年頃で、作付け面積は5ha、年間出荷箱数4～6万箱（1箱2kg、50束入り）、出荷組合員も60名であった。

しかし、兼業農家の増加や生産農家の高齢化にともない、年々生産農家が減少し生産量が減ってきている。生産量が減少すると、出荷（大阪市場）への輸送も困難となり、ますます生産が減退している。

パセリの生産量

昭和47年	出荷量	130 t	出荷組合員	60名
昭和57年	出荷量	87 t	出荷組合員	40名
平成13年	出荷量	30 t	出荷組合員	16名
平成14年	出荷量	4 t	出荷組合員	16名

